

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都墨田区緑 1-5-9
園名	アスク緑保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗を知り世界を知る

<テーマの設定理由>

自分が住んでいるところ、都道府県、世界の国の違いを知り、世界の国旗に触れることで様々な国があることに興味・関心を持ち探究活動を楽しむ。また、様々な国を知ることによって世界を知り様々な考えを持てるようにするため設定した。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする。

国旗の違いを探したり、クイズにして楽しみながら行ったりする。国旗の塗り絵を行い、自分の好きな色・好きなイメージで自由に表現し意見交換することで友だちとのイメージを共有し話し合いながら活動に取り組む。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・国旗絵本・・・日頃から子ども達が自分で国旗を見たり、気になる国旗の国名を調べるために使用
- ・国旗一覧・・・国旗を見比べて違いに気付いたり感じたりするために使用
- ・くもんの地球儀・・・様々な国の場所や日本との位置関係、国土の形に興味を持ち、調べたり国旗のイメージを膨らませるために使用
- ・国旗の塗り絵・・・国旗に使われている色や形により細かく気付いたり、自分なりに感じた事・考えたものを表現するために使用

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：国旗に興味を持てるよう、複数の国旗と見比べて形や色など同じところを探した。探す中で子どもたちも興味関心を持ち始め、同じところや違うところ、大きさの違いなど様々なことに気付いていった。国旗という枠組みにとらわれず、日本と英語の挨拶を調べた。英語の挨拶は日本語だとどんな意味かな？と問いかけ子どもたちが考えられるようにし、国の違いをみんなで考えた。また、クラスのオリジナル国旗を作るならどんな国旗にする？と問いかけ話し合いをする。一人一人が描いた所を英語で紹介した。身の回りの色を英語を用いて探したり、国旗クイズをし英語で答えたりして生活や遊びに取り入れた問いかけをした。

探究活動の様子：国旗を見て違いや同じところを探すことで国旗のデザインに興味を持ち始めたので国旗の塗り絵を用意すると興味を持って行く。友だちと見せ合い「〇〇ちゃんのここの色良いね。」「ここ同じ色だね」と真似したいところや共通点を見つけ取り入れる姿が見られた。塗ったものと国旗絵本を見比べ「ここが同じ色」と探したり、国旗絵本を見ながら色を塗り同じようにすることを楽しむ子もいた。塗り絵から発展し画用紙を用意してオリジナル国旗を作る活動に取り組む。「海とか書いたらいいんじゃない？」「そしたら太陽もあったらいいかも！」と一人の発言から様々なアイデアがうまれ自然豊かな国旗が完成した。講師から英語で色の名前を教えようと「この花はレッドだね」と遊びや生活の中で色を探し英語で保育者に教え、身の回りに何色があるか探究活動を楽しむ。戸外活動で英語の文字があることに気づくことが増え、英語が身近な存在になっていった。「これは英語で何ていうの？」と保育者に質問し意味や発音にも興味を示し口にするすることで日本語との音の違いに気付く楽しむ。

ふりかえり（保育士の気づき）：活動をしている時に大谷翔平の活躍に興味を持った子がいたので、そこから大谷さんはアメリカにいるんだよ。アメリカどこかな？調べてみよう！アメリカの国旗見てみる？と興味のあるものから連想し国旗に繋げていった。世界にはたくさんの国があることや日本の大きさは小さいのだと気づき国に興味を持つきっかけにもなった。

英語と日本語の挨拶を調べる活動の際、英語でハローはどんな意味でしょう。等とクイズをだし子どもたちが楽しみながら英語に興味を持てるようにしていくことができた。

普段の生活から赤色のお花だね。レッドだね。グリーンだ。等会話の中で英語で色の名前を言っていくことで子どもたちも真似し出し、「ここにブルーあった！」と探究活動を楽しむきっかけになったので良かったと思う。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都墨田区緑 1-5-9
園名	アスク緑保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動

<テーマの設定理由>

運動会では鉄棒やマット運動、平均台などの用具を使い、自分でやってみたい・挑戦したいと思うものに取り組んでいった。来年度以降の運動会に向けて、自分たちでできることを見つけ、目標に向かってどのように取り組んでいけばいいか考える力を伸ばしたいと考え設定した。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるようにする。

種目ごとに記録を2回測定し、1回目と2回目の違いや体の動かし方の違いに気付けるよう他児の取り組みを観察する。子どもたちに2回目の測定が伸びるような遊び（活動）は何か、どんな体の動かし方をすればその力が伸びるかを問いかけながら探究活動を行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・一人一枚の測定用紙・・・1回目と2回目の記録を記載し、違いに気付けるようにするため。また、どんな遊びをすれば記録が伸びるか考えたものを記載し見返せるようにするため使用。
- ・マット・跳び箱・縄跳び等の運動用具・・・子どもたちの考えた遊びを行うために私用。
- ・ホワイトボード・・・子どもたちの意見や考えをまとめ見やすくするため使用。

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：走る力や押す力など今ある力を伸ばすという講師からの声掛けがあった。伸ばすためにどんな遊びがあるかな？と問いかける。最初はやはり難しくイメージも掴めていない様子が見られた。講師とどんな遊びがしたいかと問いかけを変え、出てきた遊びから走るにつながる遊びはこれかな？じゃあこの遊びは手を使って押すから押す力かな？と探していった。他にも年上児の話し合いを見学したり、跳び箱を使った遊びの動画をみたりし様々な遊びを知っていくようにした。体を動かす遊びやゲームを取り入れ経験を重ねていく。そこから、話し合いでもこんなものがある。これもありそう。と案が出てくるようになった。子どもたちの発言を受け止め見守り、子どもたちが主となって話し合えるようにした。

探究活動の様子：今の力を知るためにジャンル分けし測定する。体を動かすことを楽しむ。数字が出ることで前の自分と比べることができ違いに気付く（遅い、速い等）。始めは他児を見ているだけだったが上手い子との違いに気付き始めると上手な子のやり方をよく観察し真似する子がいた。手の使い方や足の使い方など細かい部分を観察しやってみる。保育者からやってみたことでどうだった？と問いかけられると「前より速くなった」「前よりやりやすかった」と気づきを得る。その姿を見て他の子もよく観察し真似するようになっていった。今の力を伸ばすためにどんな遊びがあるかという問いに始めは難しく答えられなかったが経験を重ね、考える力がついてきたことで「押す力はお相撲」「引く力は縄跳びを引っ張る」「引く力は大根ゲームもあるよね」と今まで経験したした遊びや考えた遊びを発表し友だちと意見を交換する。

ふりかえり（保育士の気づき）：

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都墨田区緑 1-5-9
園名	アスク緑保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽絵本を創ろう

<テーマの設定理由>

廃材や楽器を使って絵本の場面にあう音楽を演奏する。絵本の登場人物や気持ち等を考えイメージした物を自由に表現する。来年度のみどりフェスティバル（音楽祭）に向けて、演奏する楽しさや表現の自由、方法を知り力を伸ばしたいと思ったため設定した。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。様々な音を聞き体で表現したり絵を描いたりし自由に表現する。
講師の読む音楽絵本を見る。
楽器・廃材を使い絵本の場面にあう音は何か試しに演奏してみる。
演奏したい場面を決め、楽器を使って演奏する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・楽器（鈴、トライアングル、ウッドブロック等）・・・自由に演奏したり絵本の場面にあった音を表現したりするため。
- ・紙・・・聞いた音からどんなイメージを持ったか絵にして表現するため使用。
- ・廃材・・・廃材も楽器になるのか試す。廃材も音が出ること楽器になることに気づき、演奏するため使用。
- ・ホワイトボード・・・見つけた音を書き出し、その音はどんなイメージか書き出すため使用。
- ・絵本「三匹のこぶた」・・・音楽絵本で使用するため。

4. 探究活動の実践

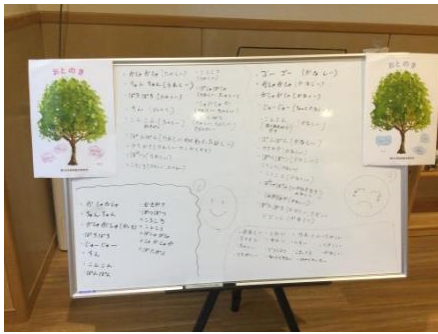
【3歳児実施分】

問いを考える：走る力や押す力など今ある力を伸ばすという講師からの声掛けがあった。伸ばすためにどんな遊びがあるかな？と問いかける。最初はやはり難しくイメージも掴めていない様子が見られた。講師とどんな遊びがしたいかと問いかけを変え、出てきた遊びから走るにつながる遊びはこれかな？じゃあこの遊びは手を使って押すから押す力かな？と探していった。他にも年上児の話し合いを見学したり、跳び箱を使った遊びの動画をみたりし様々な遊びを知っていくようにした。体を動かす遊びやゲームを取り入れ経験を重ねていく。そこから、話し合いでもこんなものがある。これもありそう。と案が出てくるようになった。子どもたちの発言を受け止め見守り、子どもたちが主となって話し合えるようにした。

探究活動の様子：今の力を知るためにジャンル分けし測定する。体を動かすことを楽しむ。数字が出ることで前の自分と比べることができ違いに気付く（遅い、速い等）。始めは他児を見ているだけだったが上手い子との違いに気付き始めると上手な子のやり方をよく観察し真似する子がいた。手の使い方や足の使い方など細かい部分を観察しやってみる。保育者からやってみたことでどうだった？と問いかけられると「前より速くなった」「前よりやりやすかった」と気づきを得る。その姿を見て他の子もよく観察し真似するようになっていった。今の力を伸ばすためにどんな遊びがあるかという問いに始めは難しく答えられなかったが経験を重ね、考える力がついてきたことで「押す力はお相撲」「引く力は縄跳びを引っ張る」「引く力は大根ゲームもあるよね」と今まで経験したした遊びや考えた遊びを発表し友だちと意見を交換する。

ふりかえり（保育士の気づき）：

3 歳児 : おんがく



3 歳児 : たいそう



3 歳児 : えいご

